

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	取り組み状況(R6)	これまでの取り組み状況(H29～R6)	累積 評価
1 安全で信頼される公共交通	(1) 安全性の向上 (P28)	① 施設の計画的な改良・更新	軌道改良工事(L=163.2m)や軌道舗装改良工事(L=273.3m)を計画どおりに実施したほか、電停改良工事(十字街、末広町)等を実施しました。	電車停留場安全地帯へのスロープ設置、電路の改良、軌道の改良、軌道分岐器の更新などを実施しました。 (軌道改良延長 L=1,572.6m/8年)	B
		② 運転技能向上への取り組み推進	添乗指導や事故防止研修を実施したほか、過去に発生した事故・災害を教訓とした冬期運転講習・非常ブレーキ等個別研修を行い、事故の再発防止とレベルアップに努めました。	立哨、添乗指導や事故防止研修を実施するなど、輸送の安全を確保するための取り組みを進めました。	B
		③ 安全管理体制の強化	運輸安全マネジメントの推進に向けて、安全方針や安全重点施策を策定し、各種訓練や研修を実施しました。また、安全管理体制を確認するために内部監査を実施しました。	PDCAサイクルに則り、安全方針や安全重点施策を策定、訓練や研修の定期的な実施、内部監査による確認など、運輸安全マネジメントを推進しました。	B
		④ 軌道内電車優先運行についての啓発強化	啓発リーフレットを街頭でドライバーに配布(500枚)したほか、企業局だより・ラジオによる広報を実施しました。	関係機関への啓発リーフレット配布や広報活動を実施するなど、軌道内電車優先運行についての啓発に努めました。	B
2 便利で快適な輸送サービスの提供	(1) 快適性の向上 (P30)	① 車両の改良・更新	1両の車体改良を実施しました。	2両の超低床車を購入し、15両の車体改良を実施しました。	A
		② 職員の接客マナーの向上	北海道函館聾学校から外部講師を招いて、聴覚障がい者への乗降支援の研修を実施しました。	外部講師を招いて接客研修を実施したほか、インバウンド接客研修会に参加するなど、接客マナーの向上に向けた取り組みを進めました。	B
	(2) 利便性の向上 (P31)	① 情報発信の強化	五稜郭公園前電停や十字街電停のデジタルサイネージ※1を活用し運行情報を発信したほか、電車内の液晶ディスプレイ広告を利用した観光情報の発信を行いました。	デジタルサイネージやロケーションシステム※2、電車内の液晶ディスプレイを利用した情報発信を実施したほか、車内放送の多言語化の充実やグーグルマップで目的地への経路検索等を可能とするなど、情報発信の強化に努めました。	A
		② ICカードシステムの活用	ICカードデータを活用し、利用動向調査を実施しました。	IC定期券の運用を開始したほか、ICカードデータを活用した利用動向分析を実施し、更なる利便性の向上を図りました。 (ICカード車内利用率 75%)	B
		③ 乗客需要に見合った適切な運行本数の確保	乗客需要に見合ったダイヤ改正(所要時分延長)を実施し、輸送効率を向上させたほか、GW期間中や夏季繁忙期を中心に多客時の臨時便増発を行いました。	乗客需要の調査や状況に応じた増車運行を実施したほか、令和2年度に日中7分間隔、令和4年度には日中8分間隔、さらに令和6年度は所要時分を104分とするダイヤ改正を実施するなど、適切な運行体制の確保に努めました。	A
		④ 料金体系についての調査研究	通学者、高齢者および運転免許返納者の利用促進に繋がる定期乗車料金の検討や幼児に対する乗車料金の無料人数の拡大について条例改正を行いました。	ICカードデータを利用した電車・バス間の乗継件数の調査および検証を行いました。	A
		⑤ 交通機関相互の連携強化	全道に点在するデジタルチケット※3を1つのランディングページ※4に一元化することなどを指す「共創モデル実証実験運行事業」に函館バス株式会社とともに参画することとしました。	路線バスと連携してICAS nimocaカードを導入し、乗り継ぎ割引制度を拡充しました。	B

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

- : 評価なし

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	取り組み状況(R6)	これまでの取り組み状況(H29~R6)	累積 評価
3 まちや地域への貢献	(1) 地域社会への 貢献 (P32)	① 地域を支える取り組みの 推進	各種イベントや旅行等による繁忙時には、増車運行や立哨を行いました。また、車体広告のガイドラインの見直しを継続して行いました。	地域のイベントなどに対応した増車運行や立哨を実施したほか、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良するなど地域を支える取り組みを進めました。また、策定から一定期間経過した車体広告のガイドラインの見直しに着手し、函館の歴史的な景観に配慮した取り組みを進めました。	B
		② 人にやさしい公共交通へ 向けた取り組みの推進	電停改良工事(十字街, 末広町)等を実施しました。	超低床車を導入したほか、安全地帯へのスロープ設置、停留場をバリアフリー対応に改良するなど、人にやさしい公共交通へ向けた取り組みを進めました。	A
		③ 環境負荷の低減	-	エネルギー効率の良い車両(超低床車)の導入が計画どおり令和5年度で完了しました。	A
4 経営基盤の強化	(1) 収益力の向上 (P33)	① 市電の利用促進	受験生やご家族を対象に、合格祈願の御守り等を営業車両内で配布する「受験生応援企画」を実施しました。	旅行代理店への営業を行ったほか、車内放送の多言語化の拡充や利用促進に係るチラシを各戸に配付しました。また、スマホ型乗車券の販売やイベントの実施など、利用促進に向けた取り組みを進めました。	B
		② 広告料収入の確保	車体広告料金の見直しについて全広告主に説明したほか、利用しやすいネーミングライツ制度となるよう改訂作業を進めました。また、5件の意匠許諾を行いました。	広告料金について車体広告の割引制度や料金の見直しを行ったほか、意匠許諾を行うなど、収入の確保とイメージアップに向けた取り組みを進めました。	B
	(2) 経営の効率化 (P34)	① コスト削減の取り組みの 推進	過年度から実施している新たな防錆塗料の試験塗布の経過を観察しました。	新たな防錆塗料の試験塗布や車両検査周期延伸のための試行など、コスト削減の取り組みを進めました。	B
		② 効率的な組織づくり	交通部の事務事業・組織機構を見直しました。	他都市の民間への委託内容を調査したほか、各課の業務分析の実施など、効率的な組織体制の構築に努めました。	B

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

- : 評価なし

※1 デジタルサイネージ…デジタルサイネージとは、ディスプレイなどの電子的な表示機器を用いて情報を発信するメディアの総称。

※2 ロケーションシステム…電車の現在地や運行状況をリアルタイムで把握できるシステム。

※3 デジタルチケット…スマートフォンやタブレットなどのデバイスで表示・管理できる電子的なチケットのこと。

※4 ランディングページ…Web広告や検索結果、SNSなどを経由してユーザーが最初にアクセスするWebページのこと。